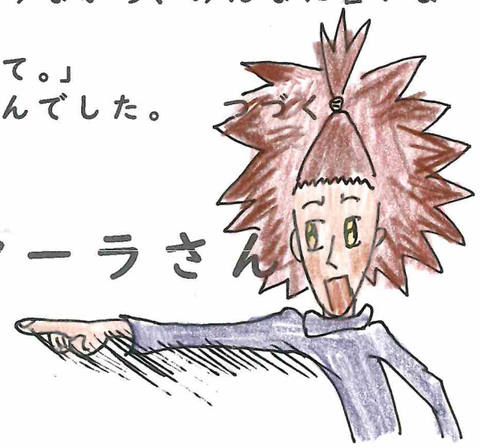
校長先生の初恋物語

第31話　マンモス小にあらわれたばけもの

　教頭先生の放送の声は、大変なことが起こっているということが伝わるものでした。
「きんきゅうじたいです。きんきゅうじたいです。先生方は子供たちを下校させないでください。子供たちを教室でたいきさせてください。子供たちは絶対に外に出てはいけません。」
教室がざわつきました。にょろひげ先生の顔はこわい顔になり、みんなに動かないよう指示を出した後、職員室に走って行きました。
そのあと、続いての放送がありました。今度は校長先生でした。
「子供たちは教室から出ないようにしてください。現在、マンモス小学校のしきち内に、イノシシが来てしまったようです。危ないので、子供たちはそのまま教室にいてください。先生方は、イノシシが校舎内に入らないよう、まどやドアをすべて閉めてください。」
　こんな時、だめだって分かっていても、やりたくなっちゃうのがきんに君です。きんに君は、
「ちょっとおれ、イノシシ見てくるよ。」
と行ってしまいました。みんなとめたのに、きんに君はどんどん行ってしまいます。
「この前は右足をおったでしょ。今度はイノシシにやられて、左足をひきづってくるんじゃないの。」
コージ君がそんなひどいことを言いましたが、もうみんなはコージ君の口の悪さは理解しています。いやなこと言っても、いやな人じゃないって分かってます。

　教室で長い時間待ちました。外がどうなっているかまったく分かりません。続きの放送もないし、にょろひげ先生ももどってこないし、きんに君も帰ってきません。
「きんに君、大丈夫なのかなぁ。」
とっくんも、さすがにきんに君のことが心配になりました。

　５年２組の教室は、マンモス小学校の３階です。その窓の外が、なんだかにぎやかでした。先生達のさけび声が聞こえてきました。「がんがんがん。」と、何かをたたく音もしました。５年２組のみんなは、外で何が起こっているのか気になって気になって、教頭先生や校長先生のいいつけをやぶって、みんなでベランダに出てしまいました。
　そこでとっくんたちが見たのは、たいへんな光景です。マンモス小学校には「城山（しろやま）」というおっきな遊具があります。その城山の上に、カバンを背負った１年生が何人かいました。そして、その城山の周りを、ぐるぐると巨大な、ばけものみたいなイノシシが走り回っていました。さらにその外側から、男の先生達が、金物のバケツを棒でがんがんならしながら、「しっしっ。」と、イノシシを追っ払おうとしています。

でも、こうふんしたイノシシは、よだれをだらだらたらしながら、走り回っています。城山の上にいる１年生はとても怖がっていました。それだけではありません。よく見ると、１年生の中に、きんに君もまざっていました。きんに君も１年生と一緒になって逃げ回っていました。
「あのばか、なにやってんだ。」
コージ君のこの言葉も、きんに君を心から心配してのものです。
　その時です。５年２組の一人の子が、ベランダからダッシュしていきました。きんに君と、１年生を助けるためです。みんなは止めました。
「やめときな。危ないよ。」
でもその子は、止まりませんでした。走りながら、みんなに言いました。
「わたしだったら、だいじょうぶ。任せて。」
走って行ったのは、なんと、アマーラさんでした。　つづく

次回予告
動物をあやつるアマーラさん